

談の研修のありかたも、小学校・幼稚園の、早期教育学校の教職員を対象とした講座の、なお一層の充実が必要となろう。

6. スクール・カウンセラー・テストの集計・分析・考察

① スクール・カウンセラー・テストからの傾向分析について（全体・男女別・学校種別）

表11から表13までは、スクール・カウンセラー・テスト（以下カウンセラー・テストと呼ぶ）の回答傾向の集計である。

表11. テスト集計(全) 表12. テスト集計(男)

傾 向	回答%
評価的な態度	1658(24)
解釈的な態度	1368(20)
支持的な態度	1259(18)
診断的な態度	2069(30)
理解的な態度	646(9)
合 計	7000(100)

傾 向	回答%
評価的な態度	930(23)
解釈的な態度	757(19)
支持的な態度	733(18)
診断的な態度	1197(30)
理解的な態度	393(10)
合 計	4010(100)

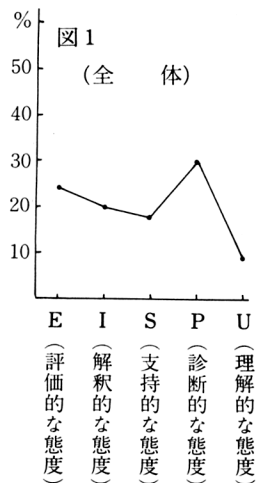
表13. テスト集計(女)

傾 向	回答%
評価的な態度	728(24)
解釈的な態度	611(20)
支持的な態度	526(18)
診断的な態度	872(29)
理解的な態度	253(8)
合 計	2990(100)

これらの表を図示したものが、図1、図2、図3である。これらの諸表、諸図を考察してみると、全調査者、男女の別

との間には大きな差異は見られない。

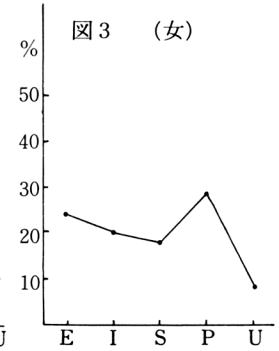
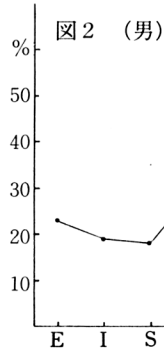
しかし、全体般的傾向として次のような点が認められた。



イ. 理解的な態度をとる教師が最も少ない。（この理解的な態度はカウンセリング・マインドに最も必要であると言われている）。

ロ. 診断的な態度を取る教師が最も多い。逆説的に言えば、教師は、常に診断的な面接、診断的な教育

相談をしがちであると言えよう。



ハ. 評価的な態度を取る教師が2番目に多く、解釈的な態度を取る教師の数がこれに次いでいる。

ニ. 支持的な態度を取る教師が最も多いと考えられたが、意外にもこれが最低である。

以上のことから、まず教育相談を実践する上で必要欠くべからざる教師の態度である、「理解と支持（非指示的面接では支持は不必要であるが）」が共に不足していることが明白となった。

なお、これらの傾向を学校別にまとめ図表化したものが、図4～図9である。

これらの図表からは以下のようなことが読みとれよう。

